

早稲田商学第 445 号
2016 年 3 月

消 息

椿弘次先生・横田信武先生のご定年退職にあたって

私たちが心から尊敬する椿弘次先生、横田信武先生のご定年退職にあたり、商学部を代表して一言お礼を申し上げます。お二人とも商学部、商学研究科ご出身の生え抜きの研究者であり、商学部助手、専任講師、助教授、教授と順調に進まれて、学部、大学院での学生の教育に尽くしてくださいました。さらにお二人とも商学部長、大学院商学研究科委員長をお務めになり、まさに商学部、商学研究科の運営に心血を注いでくださいました。いくらお礼の言葉を重ねても足りません。

椿先生は2014年3月にご退職になりました。本来であれば、もっと早くにお礼の言葉をまとめるべきでしたが、大変遅くなりましたことをお許しください。椿先生のご経歴やご研究については、田口尚志先生が詳細にご紹介くださっていますので、私は、私自身が一学生であったときから現在までの椿先生への思いを書かせていただこうと思います。

椿先生が商学部の専任講師に就任されたのが1973年、私は1974年に商学部に入學しましたので、先生の授業を受ける機会はあったことになります。椿先生は、当時は「貿易英語」という講義を担当されていました。その頃の商学部生にとっては英語経済学か貿易英語が必修科目でした。貿易英語はとても人気のある科目でしたが、たしかクラス数があり多くなく、私は多くのクラス数が設定されていた英語経済学を選択しました。

その一方で、学生の間では、何人かの先生がとても厳しいと噂されており、その一人が何を隠そう椿先生でした。何をもちて厳しいと言われていたのか、今となってはよくわからないのですが、専任講師、助教授というお若い時代に、椿先生は不勉強な学生を叱咤激励し、きちんと予習復習していなければ教室にいたたまれないような雰囲気をもし出し、試験問題も難しかったのかもしれません。考えてみれば教育者として当然のことなのですが、学生というのは勉強するために大学に入ったことをつつい忘れ、易きに流れるところがあります。そして、卒業したあとに、もっと勉強しておけばよかつ

たなどと言うことになります。厳しい、恐い、という椿先生のお噂を耳にし、結局私も履修しなかったのかもしれませんが。今となっては残念なことをしてしまいました。

椿先生にはまさに正義の人、という印象があります。教授会などで議論が噴出し、収拾がつかなくなったとき、低くてよく通るお声で正論をおっしゃり、議論をまとめてくださる姿がとても印象に残っています。先生の一言には、周りの人を沈黙させる威厳があります。また、だれもが手を付けたくない仕事を、多くを語らずに引き受けてくださるのも椿先生でした。周囲への思いやりの深さにはいつも頭が下がりました。

椿先生は、研究室と教室の移動によく風呂敷をお使いになっていました。風呂敷は一枚の四角い布ですが、いろいろなかたちのものをうまく包み込むことができます。ただし、うまく包むには包み方や結び方を熟知する必要があります。風呂敷の使いこなしは、まさに椿先生のお人柄を表しているような気がします。私も風呂敷が使いこなせるよう、学んでいきたいと思っています。

横田信武先生は、2016年3月にご定年退職なさいます。横田先生のご経歴、ご研究については横山将義先生がまとめてくださっていますので、そちらにお譲りし、先生のお人柄についてご紹介します。

横田先生が商学部長・商学学術院長をお務めになった2006年から2008年、私は教務担当教務主任として先生にお仕えしました。実のところ、それまでほとんどお話をしたことがなく、横田先生のお人柄をまったく存じ上げない状態でした。逆に言えば、横田先生は、そんな私を大胆にもよく教務主任に指名してくださったものだと思います。今考えてみれば、当時の私は教務の仕事とは何かを理解しておらず、教務主任として十分な役割を果たせていなかったと思います。自分が学部長になってみて、優秀な教務主任の世話になり、よくわかりました。先生、本当に申し訳ありません。なんとかやり通せたのも、先生の温厚で、思慮深いお人柄のおかげです。教務の打合せなどで、長い時間と一緒にしましたが、先生は私たち教務主任に対してもとても細かな気遣いをしてくださり、いやなこと面倒なことを一人で抱えていらしたように思います。

横田先生を囲み、教務のメンバーや親しい先生方でお酒を飲むこともありましたが、横田先生はとてもお酒が強く、飲んでもまったくお変わりになりません。にこにこみんなの話を聞いていて、ときどき、ほそっとコメントをされるのですが、それが短い一言で的を射ていて、よくみんなで大笑いをしました。楽しい思い出です。

横田先生のお言葉でとても印象に残っているものがあります。「止まない雨はない」という話です。「止まない雨はない」は、大変なこともいつかは終わるという意味で使われることが多いのではないかと思います。ところが、横田先生は、船がシケの海にあるときに「止まない雨はない」とは言わないだろう、とおっしゃいます。大海原で暴風雨に襲われているときに、のんびりとただ雨が止むのを待っているわけにはいかない、生き残るために全力を尽くさなくてはならない、ということです。温厚な先生ですが、この言葉は先生の芯の強さを表しているように思います。

横田先生は、最終講義の際に、留学先にニューヨークのコロンビア大学を選んだ理由として、芸術に触れる機会の多い都会にいたかったという話をなさっていました。東京で生まれ育った先生にとって、ニューヨークは居心地のいい場所だったと思います。先生は、音楽や芸術を愛し、iPodで音楽を聴いていらっしゃることもありますし、コンサートにもしばしば足を運ばれるようです。また最近ではバードウォッチングをして美しい野鳥をカメラに収めるというすばらしいご趣味をおもちです。こうしたご趣味が研究の糧となっていることと思います。授業や長い会議に時間を取られることがなくなりますので、これからは存分にご趣味と好きなご研究に時間を使っていただきたいと思います。

椿先生、横田先生は、まさに50年以上を商学部で過ごし、商学部を支えてくださった偉大な先輩です。お二人から商学部、早稲田大学に賜りましたご恩に心から感謝しております。今後ともご健康に留意され、末永く私たちをご指導くださいますようお願いいたします。

早稲田大学商学部長

嶋村 和恵